

京都市口腔保健推進実施計画「歯ッピー・スマイル京都」（仮称）骨子案に対する
市民の皆様からの御意見・御提言と本市の考え方

1 実施期間

平成30年1月10日（水）～平成30年2月9日（金）

2 応募方法

郵送，FAX又は電子メールなど

3 応募結果の概要

応募者数 274人

御意見・御提言数 652件

(1) 性別人数

	男性	女性	無回答	合計
応募者数（人）	47	196	31	274
構成比（%）	17.2	71.5	11.3	100.0

(2) 年代別人数

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	合計
応募者数（人）	46	75	44	41	26	22	7	0	13	274
構成比（%）	16.8	27.4	16.1	15.0	9.5	8.0	2.6	0	4.7	100.0

(3) 京都市在住・在勤別人数

	京都市在住	その他	無回答	合計
応募者数（人）	188	70	16	274
構成比（%）	68.6	25.5	5.8	100.0

(4) 項目別御意見・御提言数

項目	御意見・御提言数
1 基本理念について	2 2 2
2 取組方針について	1 5 6
3 市民の歯と口の健康づくりを支える取組（各ライフステージ等に応じた具体的取組）について	8 3
①全体又は各ライフステージでの取組について	6 1
②個別の具体的取組について	1 3
③記載について	6
④その他	3
4 そのほか全体について	1 7 4
①全体について	1 2 3
②計画内容について	8
③取組の提案・意見について	4 3
5 その他	1 7

4 主な意見の内容と本市の考え方 別紙のとおり

京都市口腔保健推進実施計画「歯ッピー・スマイル京都」(仮称)骨子案に関する
市民の皆様の主な御意見と御提言に係る本市の考え方

1 基本理念について(222件)

※記載しているページ番号は、計画冊子の該当ページを示しています。

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	基本理念として賛成、良いと思う。	156	「健康長寿のまち・京都」の実現を目指し、基本理念に基づいた歯と口の健康に関する取組を推進してまいります。
2	市民への啓発・働きかけなどをはじめ、しっかりと取組を推進してほしい。	16	「健康長寿のまち・京都」の実現を目指し、関係機関・団体と連携し、各ライフステージや特性に応じた取組を進めてまいります。
3	歯と口の健康の重要性を知った(再認識した)。	10	「健康長寿のまち・京都」の実現を目指し、関係機関・団体と連携し、歯と口の健康に関する適切な情報発信をはじめ、各ライフステージや特性に応じた取組を進めてまいります。
4	生涯にわたる歯と口の健康のためには、小さい頃、若い頃からの取組が重要。乳幼児期、少年期、青年期などの早い時期の啓発に取り組むべき。	7	生涯にわたる歯と口の健康のためには、生まれる前から生涯にわたって取組が重要と考え、胎児期から高齢期まで各ライフステージに応じた歯と口の健康に関する取組を推進してまいります。特に、乳幼児期や少年期、青年期には、歯と口の健康を保つための生活習慣などの習得・確立に関わる重要な時期として取り組んでまいります。(P18～23)
5	基本理念としてはよいが、具体的な取組が大切。知りたい。どのようにして取り組むのか。	6	「第5章 市民の歯と口の健康づくりを支える取組(ライフステージ等に応じた具体的な取組)」のなかで、すべてのライフステージ等の具体的な取組の記載を大幅に増やしました。各事業等のより詳細な内容については、関係機関・団体と連携し、健康教室や啓発冊子の配布等をはじめとした具体的な取組を進めていくなかでお示ししてまいります。(P16～28)
6	全身の健康や心の健康に効果的につながるように、運動や栄養など歯科以外の分野の健康づくりと一体的に取り組むべき。	5	本計画は、「歯と口の健康」の切り口からお示していますが、歯と口の健康を含む健康増進計画である「健康長寿・笑顔のまち・京都推進プラン」に基づき、栄養や運動を含めた様々な分野と一体的に取り組んでまいります。
7	歯と口の健康が全身の健康につながることや口腔機能などについて、まだまだ知られていないのでは。	4	今後、本計画に基づき、具体的な取組を進めていくなかで、歯と口の健康と全身の健康の関係や口腔機能の重要性などについて普及啓発を図ってまいります。
8	基本理念として長い。もっとシンプルにしてはどうか。	4	歯と口の健康づくりから心身の健康や健康寿命の延伸につながる概念と本市の方向性をお示するため、「市民一人ひとりが取り組む」「生涯にわたって」「しっかりと噛んで」「健やかで」「心豊かに」「笑顔」のいずれも重要なキーワードと考え、盛り込んでおります。
9	基本理念でも、一歯一歯の重要性や歯そのものの健康長寿も啓発してほしい。	3	「しっかりと噛んで」「健やかで心豊かに」「笑顔で」という表現でお示した口腔機能の重要性のなかには、歯自体の重要性も内包されております。

10	噛むことの重要性, 食べることの幸せなどについても広めてほしい。	3	基本理念では, しっかりと噛んで食べる心が心身の健康につながることをイメージして表現しております。噛むことの重要性や食べることの幸せなどについては, 健康教室等の具体的な取組のなかでもしっかりとお伝えしてまいります。また, 計画では, 「口腔機能」についてのコラムで食べることの幸せについて記載しておりますが, さらに「歯と口の健康増進が健康寿命の延伸につながる概念イメージ」において, 「意欲の保持・心の充足」について追記しました(P3, P11)。
11	歯と口の健康が全身の健康につながることを表してほしい。	2	基本理念においては, 歯と口の健康づくりの取組が, 健やかで心豊かに笑顔の暮らしにつながることを表現することで, 歯と口の健康が全身の健康につながることを表しております。また, 「歯と口の疾患が全身の健康に与える影響」や「歯周病」についてのコラムを追記しました(P11, P14)。
12	歯を失っている場合はどうすればよいのか。歯を失っている場合の対応も重要だ。	2	基本理念でお示した「しっかりと噛んで食べる」ことには, 例えば, 入れ歯等を使用して噛む機能を維持することなども内包されています。市民の皆様の歯と口の状況は様々ですが, 歯の数に限らず, その方に応じた歯と口の健康づくりに取り組んでいただくことを目指して, 取組を進めてまいります。なお, その点を明確にするため, 入れ歯等を使用して口腔機能を維持することの重要性を追記しました。(P3)
13	健康長寿と聞くと高齢者向けの理念に感じるが, 「生涯にわたって」というところが重要と思う。すべての年代に向けた理念として取り組んでほしい。	1	胎児期から高齢期まで, すべてのライフステージに応じた取組が健康寿命の延伸につながるという考えに基づき, 基本理念を定めました。生涯にわたって, 市民の皆様がの歯と口の健康づくりを実践していただけるように, 取組を進めてまいります。
14	取組はよいが, 市民の実践につながるか。	1	市民の方の実践につながるように, 関係機関・団体と連携し, 「第5章 市民の歯と口の健康づくりを支える取組」にお示したような各ライフステージ等に応じた具体的な取組を進めてまいります(P16~28)。
15	健康長寿笑顔のプランの中で文化・地域力をうたっているがその観点はいらないのか。	1	本計画は, 健康長寿・笑顔のまち・京都推進プランにおける「歯と口の健康」の取組の一層の推進を図るために策定しており, 健康長寿・笑顔のまち・京都推進プランの基本理念は, 本計画も含めた健康づくり全体で目指すものとなります。取組方針に, 「地域力・文化力」についての記載を追記しました。(P10)
16	歯と口の健康増進が健康寿命の延伸につながることを各医療機関が市民に伝えていくことが大切だと思う。	1	歯科医療機関・歯科関係団体をはじめ, 京都市民健康づくり推進会議や健康長寿のまち・京都市民会議の参画団体など, 関係機関・団体と連携しながら, 本計画の推進に取り組んでまいります。

2 取組方針について(156件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	取組方針として賛成、良いと思う。	57	本計画に基づき、ライフステージや配慮の必要な方の特性に応じた、市民の皆様の歯と口の健康づくりを支える取組を推進してまいります。
2	ライフステージや特性に応じた取組の記載がわかりやすい。良い。	25	本計画に基づき、ライフステージや配慮の必要な方の特性に応じた、市民の皆様の歯と口の健康づくりを支える取組を推進してまいります。
3	歯と口の健康に関わる知識(全身の健康との関わり、誤嚥性肺炎予防、口腔機能・・・)について、もっと啓発すべき。広く知られるとよい。	16	保健福祉センターや地域での健康教室、啓発冊子、啓発イベントをはじめとした取組を通じ、歯周病と全身の健康との関わりや誤嚥性肺炎予防をはじめとした啓発に取り組んでおりますが、ライフステージや配慮の必要な方の特性に応じて、市民の皆様の歯と口の健康づくりにつながるような情報発信や普及啓発の充実にさらに一層努めてまいります。
4	歯の数、8020運動も重要である。	8	口腔機能の維持には、歯の数の維持も重要な要素であり、内包され则认为しており、口腔機能の重要性とともに8020運動を引き続き推進してまいります。これらの点について、明確にするため、8020運動の推進や歯の数の重要性について追記いたしました(P2, P11)。
5	オーラルフレイル・口腔機能の概念を取り入れたのがよい。まだまだ知られておらず、広めていくべき。	8	御指摘のとおり、オーラルフレイルについては、まだまだ広まっておらず、その言葉の意味や内容とともに早期対応の重要性の啓発から取り組みは始める必要があると認識しております。保健福祉センターや地域における健康づくり事業をはじめ、後期高齢者歯科健診事業等の様々な事業・機会を通じて、オーラルフレイルとその対策について、普及啓発に取り組んでまいります。
6	効果的な啓発に向けて工夫すべき。	7	歯科医療機関や健康長寿のまち・京都市民会議の参画団体をはじめとした関係団体・機関と連携し、ライフステージ等に応じた周知に取り組んでまいります。
7	学校、大学、企業、家庭、地域、歯科医院などと連携して取り組むべき。各機関・団体も主体的に取り組むべき。	6	本計画に基づき、歯科医療機関や健康長寿のまち・京都市民会議の参画団体をはじめ、関係団体・機関と連携しながら、具体的取組を推進に努めてまいります。「歯と口の健康づくりの取組を推進する社会イメージ」において、各関係機関・団体の具体的な取組内容について追記いたしました。(P15)
8	積極的に推進してほしい。	5	本計画に基づき、「健康長寿のまち・京都」の実現に向け、ライフステージや配慮の必要な方の特性に応じた「歯と口の健康」に関する取組を推進してまいります。
9	むし歯予防、歯周病予防の取組も必要である。	4	むし歯予防や歯周病予防については、本計画の「取組方針」のなかで、「歯と口の健康づくりの基本的な取組」のひとつとして位置づけています(P10)。また、「ライフステージ等に応じた歯と口の健康づくりの基本的な取組の推進イメージ」でお示ししているように、生涯にわたり、各ライフステージに合わせたむし歯予防や歯周病予防に取り組んでまいります(P12)。
10	生涯を通じて関心をもてるのがよい。生涯を通じての取組であることが伝わればよい。	3	健康寿命の延伸には、胎児期からの生涯を通じた健康づくりの取組が重要として、本計画を策定しております。胎児期から高齢期の各ライフステージ、また配慮が必要な方や全市民に対する取組を推進してまいります。

11	子どもの頃から取り組むことが重要である。子どもの頃から関心をもつように啓発・教育すべき。	3	健康寿命の延伸には、胎児期からの生涯を通じた健康づくりの取組が重要であると認識しております。とりわけ、乳幼児期や少年期では、生涯にわたる歯と口の機能の基盤や健康づくりに関わる生活習慣を身につける時期として、保健福祉センターでの健康教室や保健指導、学校での歯科保健教育等を通じた啓発をはじめとした取組を進めてまいります。(P18~21)
12	歯と口の健康増進や予防は重要である。	3	本計画に基づき、生涯にわたる各ライフステージ等での歯と口の健康増進や各疾患予防などの重要性をお伝えしてまいります。
13	かかりつけ歯科での定期健診の推進及び啓発が重要である。	2	本計画の「取組方針」のなかで、「歯と口の健康づくりの基本的な取組」のひとつとして「かかりつけ歯科での定期的な歯科健診」を位置づけ、その重要性などの啓発に取り組んでまいります。(P10)
14	大まかな案としては分かりやすいが、推進や啓発など各取組の具体的な内容が分からない。	2	すべてのライフステージ等において、取組内容の記載を大幅に増やしました(P16~28)。また保健福祉センターや地域における健康教室や保健指導をはじめとする各取組のなかで、啓発冊子等を用いるなどして、市民の方への情報発信・啓発などを行ってまいります。
15	個人に応じた取り組みが必要。	1	本計画では、ライフステージや配慮の必要な方の特性に応じた取組を中心にお示しておりますが、さらに個人に応じた取組を行っていただくことを推進するために、個人に合わせた定期的なケアや管理などを行う「かかりつけ歯科」の重要性の啓発に取り組んでまいります。また、かかりつけ歯科のコラムを掲載しました(P12)。
16	歯科といえば、むし歯治療のイメージだったが、食べることに関わる大事な分野ということがわかった。	1	食べることをはじめとした口腔機能とその重要性の普及啓発に取り組んでまいります。
17	食べ物が口から食べられることが大切であることだけでなく、「口から食べる楽しさや幸せ」という視点も伝えてほしい。	1	健康な歯を含めた口腔機能がおいしく味わって食べることなどの生活の基本や楽しみ、幸せを支えていることについて記載しております(P3)。さらに、「歯と口の健康増進が健康寿命の延伸につながる概念イメージ」において、「意欲の保持・心の充足(意欲, 満足感, 幸福感等)」などの心理面への影響についても追記しました(P11)。
18	社会参加や人とのつながりと口腔機能などの結びつきがよくわからない。	1	口腔は、会話する、一緒に食事をする、笑うなど、社会参加や人とのつながりのうえで欠かせない機能を担っています。その健康を損なうことは、社会参加や人とのつながりへの意欲や機会の減少につながるため、口腔の健康はその点からも重要と考え、オーラルフレイルやフレイルという概念を本計画に盛り込んでおります。フレイル・オーラルフレイルについては、コラムとして説明を記載しております(P4)。
19	歯の本数の維持が口腔機能の維持に直結すると思うが、何か異なるのか。	1	歯の数は口腔機能の維持に関わる大きな要素ではありますが、それ以外に、舌や頬などの筋肉や唾液、失った歯を補う入れ歯等の状態など、様々な要素が口腔機能の状態に影響します。本計画では、歯の数の維持の重要性はもちろんながら、歯の数によらず、その方の状況に応じた口腔機能の維持・向上を目指して、取り組んでまいりたいと考えております。
20	毎日の予防や運動・食事などとの取組が大事。	1	運動や食事に関する取組が盛り込まれている「健康長寿・笑顔のまち・京都推進プラン」と連携しながら、本計画に基づき、ライフステージや配慮の必要な方の特性に応じた歯と口の健康に関する取組を推進してまいります。

21	カミング30をもっと推進してほしい。	1	各ライフステージの具体的な取組、とくに「口腔機能の育成・低下予防」に関する取組のなかで、「よく噛むこと」の重要性の普及啓発に取り組んでまいります。
----	--------------------	---	---

3 市民の歯と口の健康づくりを支える取組(各ライフステージ等に応じた具体的取組)について(83件)

① 全体または各ライフステージでの取組について(61件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	少年期の歯と口の健康に関する意識づけが重要であり、歯みがき指導を含め、啓発・教育を充実させてほしい。家庭への啓発も重要である。	9	本計画に基づき、保健福祉センター、児童館、学校等の関係機関・団体と連携し、お子さん自身や御家庭での実践につながるよう取り組んでまいります。少年期の取組内容の記載を大幅に増やしました。(P20～21)
2	青年期・壮年期・中年期では、働き世代、大学生へのアプローチに取り組むべき。(歯科健診の重要性、青年期では審美的な面、中年期・壮年期では生活習慣病との関わりなど。)	7	本計画に基づき、大学・企業との連携による若年層への歯科口腔保健の普及啓発をはじめ、ライフステージや配慮の必要な方の特性に応じた取組を推進してまいります。青年期・壮年期・中年期の取組内容の記載を大幅に増やしました。(P22～23)。
3	乳幼児期に噛むことや口を育てること、むし歯予防などを啓発すべき。家庭への啓発が重要。また家庭だけでなく、保育園・幼稚園などでも取り組んでほしい。	7	本計画に基づき、保健福祉センター、保育所(園)・幼稚園等の関係機関・団体と連携し、御家庭での実践につながるよう取り組んでまいります。乳幼児期の取組内容の記載を大幅に増やしました。(P18～19)。
4	高齢期では、口腔ケアの方法、口腔機能の向上、食事の工夫などについての啓発や健康教室などを充実すべき。	5	本計画に基づき、保健福祉センター、歯科医院、地域介護予防センター等の関係機関・団体と連携し、健康教室や保健指導などの実施や啓発冊子の配布等による普及啓発に取り組んでまいります。高齢期の取組内容の記載を大幅に増やしました。(P24～25)。
5	妊娠期(胎児期)や産婦期に歯と口の健康(子どもの歯と口の健康を含む)に関する啓発に取り組んでほしい。	5	胎児期(妊娠期)や乳幼児期において、保健福祉センターでの健康教室や保健指導をはじめとした具体的な取組のなかで、妊産婦や周囲の方への御自身とお子さんの歯と口の健康に関する啓発に努めてまいります。胎児期(妊娠期)及び乳幼児期の取組内容の記載を大幅に増やしました。(P16～19)。
6	歯間ブラシやデンタルフロスなどの使用の重要性を啓発すべき。	5	本計画のライフステージ別の取組において、「個人・家庭での歯と口の健康づくり」に歯間ブラシやデンタルフロスの使用について推奨しております。市民の皆様の実践につながるように、健康教室や保健指導等を通じた普及啓発に取り組んでまいります(P16, P18, P20, P22, P24)。
7	喫煙の口腔内への影響を啓発すべき。(加熱式たばこ、口腔がん含む)	4	歯科医院と連携した禁煙や受動喫煙対策に取り組んでまいります。また、とりわけ、健康教室や啓発冊子の配布等の具体的な取組のなかで、歯周病や口腔がんを含む喫煙による口腔内への影響について、啓発を行ってまいります。計画では、歯周病の発症・進行に関わるリスク因子としての記載を追加しました(P14)。また、本計画と連携する「健康長寿・笑顔のまち・京都推進プラン」において、加熱式たばこを従来からのたばこに準じた扱いとするとしており、保健福祉センターにおける健康教室等において同様に普及啓発を実施してまいります。
8	口腔ケアの体制の充実・普及啓発を図ってほしい。	4	障害者(児)・要介護高齢者をはじめとした配慮の必要な方への口腔ケアの推進のため、施設職員等への口腔ケアなどに関する知識や技術の普及啓発などに取り組んでおり、内容や対象の拡大など充実に努めてまいります(P27)。
9	口腔がん対策に取り組むべき。	3	平成27年度から冊子等による口腔がん啓発を行っていましたが、さらに平成29年度からイベントにおける口腔がん簡易健診の実施による普及啓発等に取り組み始めました。引き続き、取組内容の充実に努めてまいります(P23, 25)。

10	配慮が必要な方の取組を充実してほしい。もっと記載しては。	2	配慮が必要な方に対し、ライフステージごとの取組に加えて、各特性に応じて必要な取組を進めてまいります。取組内容の記載を大幅に増やしました。(P26～27)
11	子育て世代は自分自身の歯と口の健康づくりが手薄になりがち。	2	胎児期(妊娠期)や青年期・壮年期・中年期等の取組, またお子さんに対する乳幼児期や少年期の取組のなかで, 子育て世代に対する情報発信や普及啓発に努めてまいります。
12	高齢者に対する訪問歯科診療も必要である。	1	アプリを活用した在宅歯科診療に関する情報発信など, 要介護高齢者を含め配慮が必要な方に対する取組を推進してまいります(P27)。
13	20代以降のライフステージで顎関節症の内容について触れられないか。	1	御意見を踏まえまして, 青年期・壮年期・中年期への普及啓発内容として追記いたしました(P23)。
14	高齢期などターゲットの年齢層を絞るなどしてより効果的な方策を検討すべき。歯科の目標で日本一になるなどの意欲を示してほしい。	1	すべての市民の方が生涯にわたり歯と口の健康づくりに取り組めるよう, ライフステージ等に応じた取組を進めてまいります。具体的に取組を進めていくなかでは, 状況やニーズに応じて重点施策を行うなど, より効果的な方法を模索してまいります。
15	介護施設への訪問歯科健診などの取組を実施すべき。	1	要介護高齢者や障害者(児)の方の入所・通所施設等への出張歯科健診等の実施に取り組んでおります(P27)。
16	年少期からフロスなどの使用の普及に努めるべき。	1	御意見を踏まえまして, 乳幼児期・少年期の「個人・家庭での歯と口の健康づくり」にデンタルフロスの使用について追記しました(P18, P20)。
17	口腔内の健康のためにも禁煙対策に重点的に取り組んでほしい。	1	歯周病予防をはじめとした歯の健康づくりのために, 保健福祉センター等での健康教室や啓発冊子等での喫煙による口腔内の健康への影響の普及啓発のほか, 歯科医院と連携した禁煙対策や受動喫煙対策の推進などに取り組んでまいります(P23, P28)。また, 「健康長寿・笑顔のまち・京都推進プラン」において, 禁煙対策の推進に取り組んでいくことをお示しております。
18	歯石除去の重要性を示してほしい。	1	すべての市民の方に対する共通の取組において, 「個人・家庭での歯と口の健康づくり」として, 定期的な歯石除去を受けることについて記載しています(P28)。
19	誤嚥性肺炎の予防が重要。	1	とりわけ, 高齢期や配慮が必要な方の具体的取組において, 誤嚥性肺炎予防を課題として捉え, 誤嚥性肺炎に関する一般啓発や, 在宅介護に関わるご家族や入所施設の職員等に対する知識の普及啓発や口腔ケアの推進などに取り組んでおり, 引き続き, 内容の充実等に取り組んでまいります(P24～27)。

② 個別の具体的取組について(13件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	個々の年代や状況に応じた歯みがき方法やケアの方法を啓発してほしい(妊婦, 70歳以上など)。	3	保健福祉センターにおける歯科相談や歯科健診における歯科保健指導, 地域における健康教室等をはじめ, 年代に応じた歯みがき方法などの普及啓発に取り組んでおります。引き続き, いただいた御意見も踏まえながら, 内容の充実に取り組んでまいります。
2	大学生のボランティアが栄養や歯(口腔)などについて話をする事ができれば, 大学生にも聞く側にも勉強になる。	1	大学等との連携による若年層に対する歯科口腔保健の普及啓発に取り組んでまいることとしており, 具体的に進めていくなかで効果的な実施方法等について検討してまいります。(P23)
3	小学生・中学生で, フッ化物洗口とともに食後の歯みがきなどを推進するために, 歯みがきしやすい環境をつくってもよいのでは。	1	学校における歯科保健教育や歯みがき指導などの取組を通じて, 引き続き, 小学生や中学生の歯と口の健康づくりの推進に努めてまいります。
4	呼びかけよりもさらに積極的な働きかけが必要。特定健診のオプションで歯科健診の項目を設けるのはどうか。	1	京都市国保の特定健診の集団健診会場で歯周病症状に関するセルフチェックシートを配布し, 歯周病の早期発見と歯科受診勧奨につながるように啓発を行っているところです。また, 平成30年度から特定健診の質問票に「噛んで食べる時の状況」に関する項目を追加し, 実施いたします。
5	フッ化物歯面塗布事業の回数を1回ではなく複数回にしてほしい。	1	フッ化物歯面塗布事業は, むし歯予防とともにかかりつけ歯科をもつことのきっかけとしていただくことを目的としています。本事業を通じ, 子どもの頃からかかりつけ歯科をおもちゃいただき, 継続的にフッ化物歯面塗布を受けていただけるよう, 引き続き, 普及啓発に取り組んでまいります。
6	今後, 力を入れるべきなのは30代以降の歯周病対策であり, 歯周疾患予防健診でも健診と同時に歯石除去等が無料あるいは低額の自己負担で受けられるようにしてはどうか。	1	本計画に基づいて, 壮年期・中年期の歯周病の発症・重症化予防の取組を推進してまいります(P22~23)。歯周疾患予防健診につきましても, 多くの方に受けていただけるよう, 歯周病の発症・重症化予防の啓発とともに, 事業周知に努めてまいります。
7	大学生が自ら歯科医院に行きやすいような働きかけがあるとよい。	1	大学等の関係機関・団体と連携しながら, 若年層への歯科口腔保健に関する普及啓発に取り組んでまいります(P23)。
8	小学生にはポスター, 高齢者には川柳などのコンテストなどを開催して, 興味をもってもらうとよいのではないかと。	1	京都府歯科医師会及び京都市教育委員会, 京都府教育委員会が主催し, 小学生・中学生の歯・口の健康に関するポスター等の表彰が毎年実施されております。また, 京都市・京都府が補助を行っている京都府歯科医師会の「いい歯の日週間」記念行事において「歯やお口などを題材とした川柳コンテスト」が毎年開催されているところです。
9	社会的取組のひとつとして, 会社などで食後に歯ブラタイムを設けるなどの歯磨き習慣運動はどうか。	1	企業や保険者等と連携し, 若年層や生活習慣病予防に関する歯科口腔保健の普及啓発に取り組んでまいります(P23)。
10	各区保健福祉センターの歯科衛生士による健康教室や歯のひろばなどでの歯科医師・歯科衛生士による指導など, 各区や公共施設での催しを継続・充実してほしい。	1	引き続き, 地域における健康づくり事業などを推進し, 保健福祉センターや地域における啓発イベントや歯科専門職による歯科相談や健康教室等に取り組んでまいります(P28)。

11	各ライフステージで歯科相談を受ける機会があるのはありがたい。	1	保健福祉センターでは、妊産婦の方や18歳以上の方に対する歯科相談、就学前までのお子さんに対する歯科相談のほか、対象年齢に対する歯周疾患予防健診、イベントにおける無料歯科相談、などを実施しております(P28)。
----	--------------------------------	---	--

③ 記載について(6件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	大学・企業等や保険者・企業等による普及啓発の具体的な内容を教えて欲しい。	1	健康長寿のまち・京都市民会議の参画団体をはじめ、関係機関・団体と連携して、各ライフステージに応じ、歯科健診の重要性や歯周病の発症予防・重症化予防、生活習慣病予防等の普及啓発などに努めてまいります。具体的な内容については今後検討を進めてまいります。
2	糖尿病重症化予防に関する多職種連携の具体的な内容はどんなものか。	1	歯科専門職を含む多職種が参画する京都市糖尿病重症化予防戦略会議の設置による連携の推進を検討しており、その点を追記しました。(P23)
3	障害者歯科診療はすべての市民ではなく、障害者の取組のところではないのか。	1	御指摘を受け、配慮が必要な方の「本市の具体的取組」として、修正いたします(P27)。
4	青年期・壮年期・中年期がひとつのライフステージにまとめられているが広すぎないか。高齢期も一括りにできるか。	1	青年期・壮年期・中年期については、歯周病予防の重要性が非常に高いことなど、共通する特徴が多いと考えているため、一括りとして記載しています。一方で、発症予防と重症化予防などの違いがあるため、具体的な取組では、それぞれの特徴を踏まえたアプローチを実施してまいります。また高齢期も同様に、各年代の状況に応じて、特徴を踏まえた効果的なアプローチに努めてまいります。
5	歯と口の健康づくりへの働きかけ、連携・普及啓発など、具体的になにをするのか。	1	ライフステージ等に応じた具体的な取組において、取組内容の記載を増やしました(P16～28)。また保健福祉センターや地域における健康教室や保健指導をはじめとする各取組のなかで、啓発冊子等を用いるなどして、市民の方への情報発信・啓発などを行ってまいります。
6	充実と記載されている取組はどのように充実させるのか。	1	充実という記載は、すでに既存の取組があるもので、その内容の充実に取り組んでいくものに付記しております。その充実内容については、実施回数、対象の拡大、提供内容の拡充など、各事業の状況とニーズに合わせて、進めてまいります。

④ その他(3件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	要介護認定者が多いのは、青年期～高齢期の歯科健診や歯の数の状況が全国的に下回っているからなのか。	1	両者の関係を分析できるようなデータを保有しておらず、いただいた疑問については明確にお答えできませんが、口腔機能の低下と要介護状態との間に関係があるという知見などを踏まえて、本市では、フレイル予防や介護予防の観点からオーラルフレイル対策等の取組を進めてまいります。
2	フッ化物歯面塗布の受診率が低いので驚いた。	1	乳幼児健診時にフッ化物歯面塗布の重要性の啓発等の働きかけを含め、引き続き、フッ化物歯面塗布事業の利用率の向上に努めてまいります。

3	かかりつけ歯科をどのように見つければよいのか。	1	かかりつけ歯科を見つける機会としても、本市の歯周疾患予防健診・フッ化物歯面塗布事業等を御利用ください。
---	-------------------------	---	---

4 そのほか全体について(174件)

① 全体について(123件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	専門用語の解説、イラスト・図などわかりやすくする工夫がほしい。	29	図やグラフ、イラスト等を追加しました。また、概要をまとめたリーフレットの作成など、計画内容をわかりやすくお伝えするように努めてまいります。
2	全体的に良い内容になっていると思う。	23	「健康長寿のまち・京都」の実現を目指し、本計画に基づいた歯と口の健康に関する取組を推進してまいります。
3	市民にもっと広まればよい。	12	本計画に基づき、ライフステージや配慮の必要な方の特性に応じ、普及啓発をはじめとした取組を推進してまいります。
4	取組を推進し、着実に実行してほしい。	10	「健康長寿のまち・京都」の実現を目指し、本計画に基づいた歯と口の健康に関する取組を推進してまいります。
5	もっと市民に広く知ってもらうためには、ポスター・リーフレットを活用するなど、周知の工夫が必要。	8	計画の内容等につきましては、概要をまとめたリーフレットを作成し、関係機関・団体と連携し、健康教室やイベント等での配布などによる周知を行ってまいります。
6	ライフステージ別の具体的取組など、わかりやすい。	7	本計画に記載した具体的取組を通じ、市民の皆様の歯と口の健康づくりの実践につながるよう取り組んでまいります。
7	歯と口の健康に関する理解が深まった(全身の健康との関わりなど)。	5	本計画に記載した具体的取組を通じ、市民の皆様の歯と口の健康づくりの実践につながるよう取り組んでまいります。
8	歯と口の健康づくりを実践していきたい。	4	本計画に記載した具体的取組を通じ、市民の皆様の歯と口の健康づくりの実践につながるよう取り組んでまいります。
9	具体的な取組や具体的に何をすればよいかかわりにくい。	3	ライフステージ等に応じた具体的取組において、取組内容を大幅に増やしました(P16～28)。また、具体的に取組を実施していくなかでわかりやすくお伝えできるように努めてまいります。
10	歯と口の健康の大切さを認識・再認識した。	3	本計画に記載した具体的取組を通じ、市民の皆様の歯と口の健康づくりの実践につながるよう取り組んでまいります。

11	歯科関係者をはじめ、医療機関関係者、メディアなど関係機関・団体と連携して進めてほしい。	3	健康長寿のまち・京都市民会議の参画団体をはじめとした関係機関・団体と連携しながら、各ライフステージ等に応じた具体的な取組を推進してまいります。なお、「歯と口の健康づくりの取組を推進する社会イメージ」において、各関係機関・団体の具体的な取組内容について追記いたしました。(P15)
12	歯科健診は自主的に受ける必要があるもので、後回しになりがち。	2	本計画に基づき、かかりつけ歯科での定期的な歯科健診の推進につながるよう、ライフステージや配慮の必要な方の特性に応じ、歯科健診の重要性の普及啓発等を推進してまいります。
13	動機付けとなる理由や統計データなどを記載した方が行動変容につながるのではないかな。	1	計画に市民の歯科保健状況等のデータを追加いたしました(P5～9)。また、健康教室や啓発冊子等の具体的な取組のなかでは、市民の皆様の歯と口の健康づくりの動機付けなどにつながるような理由やデータなどをお伝えできるように努めてまいります。
14	専門的な用語にもわかりやすい説明が記載されていてよい。	1	引き続き、計画内容をわかりやすくお伝えするように努めてまいります。
15	具体的な数値目標は設定しないのか。	1	市民の皆様の歯科口腔保健の状況を確認する数値を追記します(P30)。
16	自分が何を目標にすればよいのかはどう知ればよいのか。	1	本計画では、広く市民の方に知っていただくため、一般的なライフステージの特徴を踏まえて、内容を作成しており、各ライフステージでのおおまかな目標として捉えていただければと考えております。一方で、歯と口の状況は個人に応じて異なるため、ご自身に応じた、より効果的な目標設定のためには、定期的に歯科健診を受けられることと、かかりつけ歯科をもつことが重要であり、本計画においても推進してまいります。
17	歯科健診を受けることの意識付け、習慣が広がるように取り組んでほしい。	1	本計画に基づき、ライフステージや配慮の必要な方の特性に応じた取組を推進するなかで、定期的な歯科健診の重要性の啓発にも取り組んでまいります。
18	健康長寿の根底に歯と口の健康があることをもっと広く市民に啓発することが必要	1	「健康長寿のまち・京都」の実現を目指し、本計画に基づき、歯と口の健康と全身の健康の関係をはじめ、歯と口の健康に関する情報発信・啓発に取り組んでまいります。
19	個人のかかりつけ歯科の定期健診に期待するのは限界ではないか。	1	かかりつけ歯科での定期的な歯科健診の推進とともに、口腔機能の育成・低下予防やむし歯予防・歯周病予防につながるライフステージ等に応じた具体的な取組を展開してまいります。
20	わかりやすい提案をしていると思うが、痛みなどが無いと歯科を受診する気持ちにならない。	1	定期的な歯科健診の重要性についての啓発に取り組んでまいります。
21	興味のない方にどれだけアプローチできるかが課題。	1	健康教室等の参加型のアプローチを合わせて、関係機関・団体と連携しながら、歯と口の健康に興味のない方を含めたできるだけ多くの方に対する周知・啓発等に取り組んでまいります。

22	予防について伝えられると良い。	1	本計画に基づき、ライフステージや配慮の必要な方の特性に応じた取組を推進していくなかで、予防的な観点からも適切な情報発信に努めてまいります。
23	歯や口の健康や体や心の健康へつながることが具体的に示されると浸透しやすいと思う。	1	健康教室や啓発冊子等による啓発などの具体的取組を進めていくなかで、歯と口の健康が心身の健康につながることにしても、より具体的にお示しするように努めてまいります。
24	実施には各区の保健福祉センターでの対応が重要。	1	計画に基づき、保健福祉センターでの健康教室や歯科相談をはじめとし、区の状況に応じた歯科口腔保健の推進に取り組んでまいります。
25	健康長寿のプランとどう違うのか。	1	「健康長寿・笑顔のまち・京都推進プラン」は、歯と口の健康づくりを内包する健康づくり全体を推進するためのプランとして策定します。本計画は、「健康長寿・笑顔のまち・京都推進プラン」の歯と口の健康に関わる取組をより具体的に掲載し、推進を図るための計画として策定します。
26	近くに歯科医院がない場合はどうしたらよいのか。	1	遠方であっても、可能な頻度で歯科医院でのケアを受けていただくことと、併せて、より丁寧にご自身でのケアを実践いただくことをお勧めします。ご自身でのケア方法や歯科医療機関に関する情報などの発信に努めてまいります。

② 計画内容について(8件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	骨子案P6のライフステージのイメージ図「ライフステージ等に応じた歯と口の健康づくりの基本的な取組の推進イメージ」はわかりやすい。	1	わかりやすい表現や読みやすい工夫に努めてまいります。
2	全体的に予防の話に終始しているため、むし歯や歯周病などになった後のことに重点を置いた内容がほしい。	1	むし歯の再発、歯周病の重症化予防、入れ歯等の使用の必要性、早期治療の推進等に関係する記載を追記しました(P13, P14, P24, P25, P28)。
3	歯周病に関わる生活習慣病は糖尿病以外にもあるのではないかと。	1	歯周病の発症・重症化に関わる生活習慣病等の記載を追記しました(P11, P14)。
4	もっと入れ歯などの補綴物の重要性を加えてはどうか。	1	入れ歯等の使用の重要性について、追記しました(P24, P25)。
5	関係職種の記事も加えてはどうか	1	「歯と口の健康づくりの取組を推進する社会イメージ」において、「歯科専門職の連携(歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士)」を追記しました。(P15)
6	感染症予防対策の観点から、歯みがきだけでなくうがいも取り入れてはどうか。	1	計画においては、歯みがきや歯間ブラシの使用等の主要なものを掲載しております。具体的な啓発や情報発信を行っていくなかで、清潔保持や感染症予防としてのうがいの意義や重要性についても併せてお伝えしてまいります。

7	スポーツと噛むことの関係などを盛り込んでどうか。	1	よく噛むことの重要性をお伝えしていくなかで、より関心を高めるため、スポーツ活動の盛んな世代などのターゲットに対する啓発内容として、参考にさせていただきます。
8	歯科は通院回数が多いイメージがあり、行きにくい。症状を放置するとういリスクがあるということなどをわかりやすく書いてほしい。	1	保健福祉センターや地域での健康教室や啓発冊子等の具体的な普及啓発の取組において、関心を高めるための啓発内容として、参考にさせていただきます。

③ 取組の提案・意見等について(43件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	職場での歯科健診を義務付ける、健康診断に組み込むなど、無料歯科健診など歯科健診を受けることやかかりつけ歯科をもつことが広まる工夫や仕組みができないか。	16	本市では、区役所・支所保健福祉センターで18歳以上の方や妊産婦の方、就学前までのお子さんに対する歯科相談や対象年齢の方への歯周疾患予防健診などの歯科健診の機会を提供しておりますので、御活用いただければと思います。また、保険者や企業等の連携を図り、職場等での歯科保健の推進に努めてまいります。
2	休日急病歯科診療所や区役所・支所での歯科相談など、市の取組の情報発信してほしい。	4	休日急病歯科診療の情報をはじめ、市の事業や取組について、引き続き情報発信に取り組んでまいります。
3	お口の体操などを保健福祉センターのつどいの場などの始まりや終わりにしてはいいか。	1	各区役所・支所保健福祉センターでは独自のお口の体操などを作成しているところもあり、健康教室やイベント等で実施しています。市全体としても、お口の体操の作成及び普及啓発に取り組んでまいります。
4	様々な施設に歯科衛生士を派遣して、講座などを開いてほしい。	1	地域における健康づくり事業等において、区役所・支所の歯科衛生士が地域のニーズに応じて、健康教室等を行っているところですが、取組の周知や充実等に取り組んでまいります。
5	健診などで歯科医院を受診した際にポイント制度があるなど目に見える特典があれば、楽しみながら受診できるのでは。	1	「健康長寿のまち・京都 いきいきポイント」事業において、歯科健診についてもポイントの対象とし、ポイントをためていただくとプレゼント抽選に応募いただける取組を実施しております。
6	子どもが歯みがき習慣を身につけるのに役立つような歯みがきカレンダーをもらえる所がもっとあればよい。	1	保健福祉センターや地域等での健康教室や保健指導等の具体的な取組のなかで、乳幼児期での啓発の効果的な方法について、検討してまいります。
7	対象年齢の方が集まってもらえる機会を増やし、取組を広げていければよい。	1	地域における健康づくり事業等において、区役所・支所の歯科衛生士が地域のニーズに応じて、児童館やすこやかクラブ等の対象年齢層の方の集まる場所での健康教室等に取り組んでいるところです。
8	かかりつけ歯科で定期健診を受けるとメリットがあるような取組があるとよい。	1	「健康長寿のまち・京都 いきいきポイント」事業において、定期的な健診などの健康づくりの促進を図るため、歯科健診についてもポイントの対象とし、ポイントをためていただくとプレゼント抽選に応募いただけるような取組を実施しております。
9	手軽に参加でき、参加してよかったと思うような教室を開催してほしい。	1	具体的に健康教室等を行っていくなかで、市民の方のニーズや満足度につながるような内容や開催にあたっての工夫を検討してまいります。

10	なかなか自分で購入しようと思わないので、ティッシュ配りのように糸ようじ配りがあると良い。	1	糸ようじ等の使用の重要性の啓発に引き続き努めてまいります。いただきました御意見につきましては、市民の方への効果的な普及啓発方法として参考にさせていただきます。
11	かかりつけ歯科をもつことは大事だが、引越しなどもあるので、次の歯科医院で同じ検査をしなくてもよいように、治療状況を引き継ぎできるような手帳のようなものがあればよい。	1	歯科診療上の検査については保険診療などの制度又は医師(歯科医師)の判断において必要性の有無が判断されることとなります。また、必要に応じて、医療機関から医療機関への情報提供が行われることがあります。
12	保健福祉センターの歯科相談の回数や時間が増えればよい。会社などでも歯科健診があるとよい。	1	区役所・支所保健福祉センターの歯科相談の回数につきましては、利用状況等のニーズを踏まえて決定しているところです。企業等との連携による歯科口腔保健の普及啓発に取り組んでまいります。
13	人との対話や声を出すことの重要性なども加えて歯と口の健康に関する講習などをしていきたい。	1	本計画においては、人とのつながりや地域をはじめとした関係団体・機関との連携を重要と考えております。市民の方にも歯と口の健康づくり情報を発信していただけるよう、普及啓発に取り組んでまいります。
14	歯の健康が健康寿命の延伸につながることを伝える無料の市民公開講座等の開催を推進してはどうか。	1	京都府歯科医師会と連携し、歯と口の健康に関わるイベントや市民・府民公開講座なども実施しております。また各区役所・支所保健福祉センターでは、歯科専門職等による健康寿命の延伸につながる歯と口の健康に関する健康教室や地域団体と連携したイベントなどを実施しているところです。
15	もっと歯の重要性を広く周知してほしい。	1	健康教室や啓発冊子等を活用し、歯の重要性の啓発を行っているところですが、本計画に基づく具体的な取組を進めていくなかで、歯の健康の重要性が一層広く普及するように努めてまいります。
16	歯科医院に行くタイミングなどがわからないので、行政に相談窓口があるとよい。	1	保健福祉センターで18歳以上の方や妊産婦の方、就学前までのお子さんに対する歯科相談を定例開催しておりますので、御活用ください。
17	実際に口の中の状況がわかるように気軽に診てもらえる場を提供してほしい。	1	保健福祉センターで18歳以上の方や妊産婦の方、就学前までのお子さんに対する歯科相談を定例開催しております。また指定医療機関で歯周疾患予防健診を実施しておりますので、御活用ください。
18	正しい歯みがき方法など根本的なことを教えて欲しい。	1	保健福祉センターや地域での健康教室や啓発冊子等で具体的な普及啓発に取り組んでおりますが、ニーズに合わせた内容の充実に一層取り組んでまいります。
19	よく噛んで食べないとどういう影響があるのかということを知ってほしい。	1	保健福祉センターや地域での健康教室や啓発冊子等で具体的な普及啓発に取り組んでおりますが、よく噛むことの効果、よく噛まないことの影響などの啓発にも一層取り組んでまいります。
20	区役所での歯科相談の回数を増やしてほしい。	1	区役所・支所の保健福祉センターの歯科相談の回数につきましては、利用状況等を踏まえて決定しているところです。いただきました御意見を踏まえ、今後の参考とさせていただきます。
21	地域の学校などを利用して体育館で歯と口の啓発イベントを開催してほしい。	1	市及び各区で、関係団体等と連携しながら、区役所や商業施設等で歯と口の啓発イベントや健康づくりイベント等での歯と口の健康に関するブースなどを設置し、啓発に取り組んでおります。引き続き、市民の方が参加しやすい場所等の工夫に努めてまいります。

22	中心部だけでなく、地域でも歯と口の健康に関するイベントを増やしてほしい。	1	市及び全区で区役所や商業施設等で歯と口の啓発イベントや健康づくりイベント等での歯と口の健康に関するブースなどを設置し、啓発に取り組んでおります。引き続き、市民の方が参加しやすい場所等の工夫に努めてまいります。
23	かかりつけ歯科を見つける助けとして、地域の歯科医院マップなどがあればよい。	1	本市のフッ化物歯面塗布事業や歯周疾患予防健診事業における指定医療機関のリストについては、市のホームページへの掲載や乳幼児健診等で配布を行っているところです。気軽に御利用いただき、かかりつけ歯科を見つけるきっかけとしても御活用いただければと考えております。また、今後、アプリの活用など、歯科医院の情報提供の充実等について検討してまいります。(P19, P23, P27)
24	歯と口の健康づくりが健康長寿につながるようなイベントや研修などをしてほしい。	1	「健康長寿のまち・京都」の実現を目指し、基本理念に基づき、イベントや健康教室等を通じた普及啓発など、歯と口の健康に関する取組を推進してまいります。
25	口腔機能やオーラルフレイルがわかりやすく説明されていた。こういうことが相談できる場が増えるとよい。	1	市の事業としては、保健福祉センターで定例開催している歯科相談や個別医療機関での歯周疾患予防健診、また保健福祉センターでの健康教室や地域介護予防推進センターでの口腔機能向上教室などを御活用いただければと思います。また、今後、75歳の市民の方を対象として、口腔機能のチェックを含む後期高齢者歯科健康診査を実施いたします。(P25)

5 その他(17件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	歯科治療費に関する支援・補助等について(歯科の自由診療費が高い。高齢者の歯科治療費を無料にできないか。歯科治療費を安くしてほしい。小学生のむし歯治療の無料化を継続してほしい。歯列矯正に係る治療費の補助があればよい。保険診療の適用範囲を広げてほしい。)	10	歯科治療に係る費用につきましては、保険診療については国が、保険外診療については各医療機関が定めるものとなっております。また、対象が限られますが、支援が必要な方につきましては、学童歯対策事業や各福祉施策等による支援を行っているところです。なお、保険診療の適用範囲については、国の定めるところです。
2	喫煙対策に取り組むべき(歩きタバコ対策、防煙教室の実施対象の拡大)	2	本計画と連携する「健康長寿・笑顔のまち・京都推進プラン」において、受動喫煙防止や未成年者の喫煙防止をはじめとした喫煙対策に取り組んでまいります。
3	市の歯科専門職の体制を充実させてほしい。	2	本市の厳しい人員・財政事情の中、正職員の増員は厳しい状況ですが、今後、健康寿命の延伸における口腔保健の重要性が増々高まるなかで、さらに地域との連携を推進し、地域に根差した取組を進めることができるよう必要な体制の確保や工夫に努めてまいります。
4	歯科診療所を夜遅くまで開けてほしい。	1	歯科医院の診療時間については、各診療所の定めるところです。
5	子育て支援の取組に協力的な歯科医院がもっと増えるとよい。	1	いただきました御意見については、今後の参考とさせていただきます。
6	歯科医院の数は多いのに、人手不足に感じる。市民が安心して診てもらうには、歯科医院の数が多くないのでは。	1	医療安全相談窓口の設置等や関係機関・団体等との連携により、安心安全な歯科医療の提供に努めてまいります。